

クローズアップユニオン

北海道旅客鉄道労働組合 (略称:JR北海道労組)

北労生会員の活動紹介

(本部：〒060-0009 札幌市中央区北9条西13丁目1-2 TEL011-222-6641)

1987年4月1日、国鉄からJRへの移行に伴い、1987年2月に動労、鉄道社員労、鉄労、日鉄労、北海道自動車協議会の5組合で北海道旅客労働組合連合(略称:北鉄労)を結成。同年8月に現場管理者を中心とした鉄輪会と統一し、北海道旅客鉄道労働組合としてスタートしました。

1989年に略称を北鉄労からJR北海道労組に変更し、現在、JR北海道で働く組合員約6,400で組織する北海道旅客鉄道労働組合(略称:JR北海道労組、中央執行委員長:鎌田寛司)に至っています。

現在、労使協力関係を基礎に、安全を最優先する会社づくり、安全で安心して働ける職場づくりを進めています。

また、社会貢献の取り組みとして、「旅のプレゼント」やどんぐりを集めてポット苗を作り、育てた苗を植樹する「大沼ふるさとの森づくり」の取り組みも行っています。

「旅のプレゼント」は今年で17回を数え、今年も約100名の招待者とともに笑顔あふれる2泊3日、「大空と大地に会える とかち2012 旅のプレゼント」を実施しました。この取り組みは、JR東日本とJR北海道で働くJR総連傘下の組合員によって、東京を中心とした首都圏の心身にハンディキャップのある方を北海道の旅に招待するところから始まりました。国鉄改革を経た私たちが社会への恩返しとして「何かできないか」との思いで取り組み、北海道の大自然のすばらしさを満喫していただきました。組合員は、ボランティアスタッフとして自分の休みで参加し、旅のお手伝いと手作りのイベントなどで楽しんでもらうために奮闘しています。

私たち組合員はこの過程で多くのことを学ばせて頂きました。招待者と同じ目線で同じ時間を過ごす中で「私たちが一緒に生活している社会」のことについて多くのことを気づかされました。5mで普通は行けるところも何十mも遠回りしなければ行けない人もいます。手助けがなければ行けないこともあります。この社会が全ての人々に優しいと言えない部分があることを知りました。手助けがあれば不可能が可能になることも知りました。私たち自身が人として成長させられました。「人として」、「助け合い」、「思いやり」など現代社会では薄れていること、労働組合の原点を参加した組合員はあらためて実感しました。同時に私たちは招待者と過ごした時間の中で社会について学び、また、招待者の笑顔から何物にも代えがたい「感動」をあたえていただきました。

「旅のプレゼント」は心ある方々や団体のご支援・ご協力のもとで進めてくる事が出来ました。すべての方々に感謝するとともに、学んだことを生かし社会的に弱い人々の立場に立って、「誰もが平和で安心して暮らせるヒューマニズムあふれる社会の創造」や「人に優しい鉄道づくり」をめざしてまいります。